

令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市柏里小学校 学校協議会

1. 総括についての評価

本年度の学校の自己評価結果は概ね妥当である。

年度目標の達成に向けて取り組みを工夫し、【安心・安全な教育の実現】、【未来を切り拓く学力・体力の向上】【学びを支える教育環境の充実】ともに、それぞれの取組内容の指標(年度目標)を一定達成することができたと考える。学力面において、昨年度よりの伸びは見られなかったものの、日々、一生懸命学習に取り組んでいる様子は理解できる。学校以外でも道ですれ違った時などは、すすんであいさつをする様子も見られる。スマートフォンの視聴時間が長いことに関しては、家庭での取り組みであると思われるが、学校での指導はぜひ続けてほしい。街中では乳児・幼児でも携帯を見ている様子が見られ、本校だけの課題ではないように感じている。体育面においては、休み時間に外で遊ぶ児童が多く、先生も一緒に遊んでくれており、いきいきと活動できている。

今後も成果と課題をしっかりと踏まえ、校訓・学校教育目標(めざす子ども像)の達成をめざして、学校・保護者・地域で連携を図りながら、様々な取り組みをすすめてほしい。

2. 年度目標ごとの評価

【安心・安全な教育の実現】

学校園の年度目標(全市共通目標を含む)

○本市調査における「学校から帰ってから、スマートフォン等を使用して、平均でどのくらいSNS、動画視聴、ゲームをしていますか。」に対して、3時間以上と回答する児童の割合を27%以下にする。

【R7児童アンケート31%:取り組んだが目標を達成できなかった】

○小学校学力経年調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。【R7経年結果 85.8%:学年によっては90%を超える:目標通り達成した】

達成状況の評価に関しては妥当である。

スマートフォンの使用に関しては、自分の興味のあることについての動画視聴をしていることがあり、すべてが「遊び」であるわけではない。ただ、スマートフォンは使い手が一度見たものに関連した動画を出してくることが多い。その結果、興味のあることだけに特化して見たり読んだりすることになってしまうので、もっと広い視野を持ち、様々なことに興味をもってほしい。「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、もっとも肯定的な「思う」と回答する児童の割合が75.6%と高水準であったことは成果である。連絡帳や机に貼ったり、PCの待ち受け画面にしたりと、各学年・学級で工夫をこらした取り組みの結果であると考えられる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標(全市共通目標を含む)

○小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。

【R7経年結果 4年+7.6P 5年+9.6P 6年-15.1P 平均+0.7P:目標を達成できなかった】

○小学校学力経年調査における、「毎日、同じくらいの時刻にねて、同じくらいの時刻に起きていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を81%以上にする。

【R7経年結果 78.9%:目標を達成できなかった】

達成状況の評価に関しては妥当である。

教員間のかまめな打ち合わせによる個に応じた指導、ICT 機器の利活用等により、児童が主体的に学習に取り組むことができている。放課後学習の取り組みも成果を上げているようだ。ただ、家庭学習ができておらず、残った課題を放課後にこなしていく実情があるとのこと、家庭での学習習慣の定着を図られたい。今後も、校内研究を継続して指導力の育成を図り、学力の向上に取り組んでほしい。

今年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果は、全国平均を上回る項目がいくつかあった。放課後に運動場で遊ぶ高学年児童が一定数おり、体力向上に向けて、かけあし週間やなわとび週間などの取り組みを継続してほしい。

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標(全市共通目標を含む)

○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の87%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕【R7 95.7%:目標通り達成した】

○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準Iを満たす教職員の割合を79%以上にする。【R7 93.3%:目標通り達成した】

達成状況の評価に関しては妥当である。

「心の天気」「相談機能」の活用をはじめ、授業での ICT 機器の活用率が増加している状況から、学びを支える教育環境の充実が図られていることがうかがえる。今後はタイピングなど、技術の向上にも取り組んでいくとのこと、期待したい。

教職員が学校で教材研究する時間はほとんどないであろうから、「働き方改革」が進み、少しでも時間にゆとりができてほしい。教職員不足が深刻な問題となっている。学生のうちから「ぜひ教員になりたい。」と思ってもらえるよう、教員という仕事の魅力を伝えてほしい。

3. 今後の学校運営についての意見

本校は学校と地域がいつも協力しあっている。地域と共同で開催する地域行事も多い。また、子どもも素直でかわいらしい。学校・保護者・地域のより一層の連携の充実を期待する。

今年度は生成AIパイロット校としての取り組みがあり、公開授業を参観させてもらった。児童が一人一台端末を使いこなし、学習している様子を見て感心させられた。今後も、様々な教育課題解決のため、学校教育の質をより高め、また、教育活動をより活性化させるためにも、学校、家庭、地域が一体となって、教育活動を推進していくことを期待する。